ジェンダー主流化 第2回企業分科会1日目 開催

6月27日（木）ジェンダー主流化　第2回企業分科会1日目を開催しました。

企業分科会は昨年に引き続き、企業のジェンダー主流化を生団連から、より具体的にに進めていく活動となっております。ワークショップを中心に計4回開催し、参加者には自社課題に対し実践的に取り組んでいただきます。

第2回企業分科会は18企業・23名の方に参加いただきました。

まず、座長に就任された塩澤賢一座長（アサヒビール株式会社取締役会長）より、「政府方針でも、食品製造、小売、金融という生団連加盟企業が多い業種の男女賃金格差について指摘があり、難しい問題は数々あるが、生団連としてもジェンダー主流化委員会を中心に、要請はしっかりと受け止めたい。参加各企業も、この分科会も活用し、突破口を探っていただきたい」とのお話をいただきました。

▲塩澤座長（アサヒビール株式会社取締役会長）

国連をはじめ世界でジェンダー主流化に携わる大崎麻子様より、国内外の関連政策の策定や推進の経緯、動向について講義いただきました。歴代国連事務総長の思いを含めた世界の動きや、国内政策もデータエビデンスを基に、影響力を持つ多くの実権者を巻き込んで策定されたことで、明らかに潮目が変わっている状況など、最新情報をUPDATE頂いたことで、取り組み意義を再確認しました。

▲大崎麻子様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)

▲只松観智子様(株式会社 Think Impacts代表取締役)

▲会場の様子

ジェンダー主流化 第2回企業分科会2日目 開催

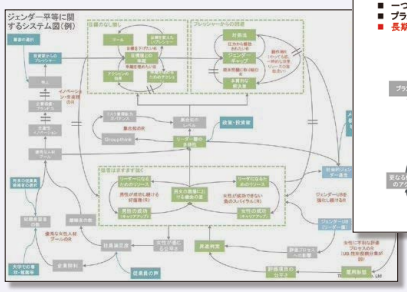
7月26日(金)ジェンダー主流化　第2回企業分科会2日目を開催しました。

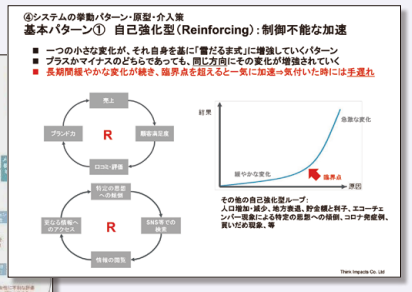
2日目を迎えた企業分科会は、19企業・21名（オンライン7企業・8名）の方にご参加いただきました。講師に、只松 観智子 様(株式会社 Think Impacts代表取締役)をお迎えし、システム思考に関するレクチャー (基礎・ジェンダー応用)の後、グループ討議を行いました。変化が大加速する時代、問題を生み出し続けるシステムを把握し、根本解決する方向性を見出すことの重要性を学びました。

講義パート

只松 観智子 様
(株式会社 Think Impacts
代表取締役)

講義パートはシステム思考の基本を知り、
ジェンダー主流化への応用の考え方を学びました。

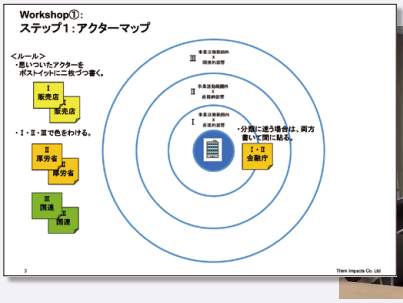




グループワーク

グループワーク①

業界毎に、アクター (関係先)を洗い出しました。

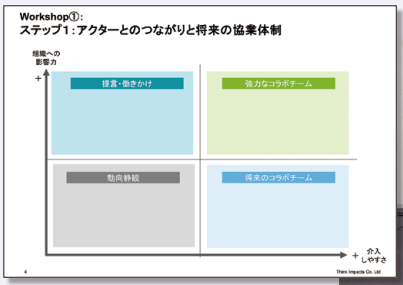


グループワーク①「アクターマップ」▶

▲グループワーク①の様子

グループワーク②

それぞれのアクターとどのように向き合うかを検討しました。



グループワーク②「つながり・協業」▶

▲グループワーク②の様子

◀講義の様子

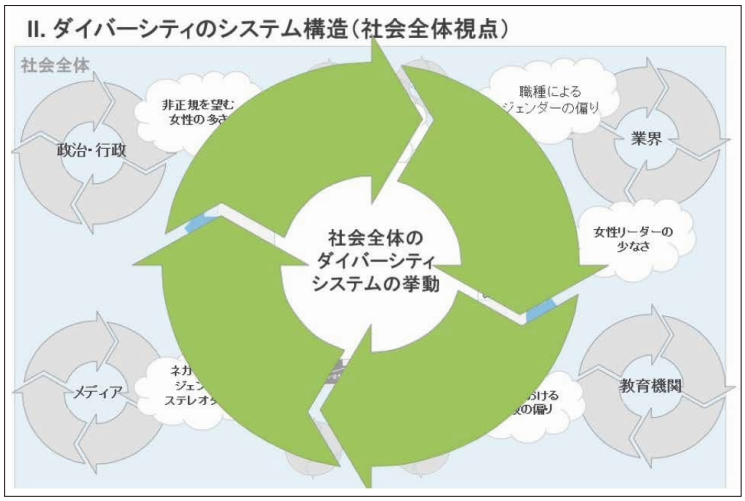
大崎 麻子 様▶
(一日目・
四日目講師)

ジェンダー主流化 第2回企業分科会3日目 開催

9月6日(金)ジェンダー主流化　第2回企業分科会3日目を開催しました。

3日目を迎えた企業分科会は、21企業・22名(オンライン2企業・2名)の方にご参加いただきました。2日目に引き続き、講師に只松 観智子 様(株式会社 Think Impacts代表取締役)をお迎えし、施策の検討と分析の方法や各社で施策を実行していく上で、ベースとなるロードマップ作成へのプロセスを解説いただきました。

ワークショップでは、各社に事前に考えてきてもらった課題から洗い出された、各社内および、各社から社会全体にもつながるダイバーシティに関するシステム原型のループを例に、只松様に解説いただきました。その後、学びを踏まえて、あらためて各社で行うべき施策を再検討し、優先順位をつけてみる工程を行った上で、グループ内で意見交換を行いました。只松様からは、参加各社にとっても、多様性の問題は極めて難しい問題であり、覚悟を決めて挑むべき課題である、多様な視点を活用するアプローチがあってこそ機能すると、参加者へのエールを頂きました。



▲只松 観智子 様((株式会社 Think Impacts代表取締役)

大崎 麻子 様からは、前回(二日目)から当日迄でも、刻々と進捗する「政府PT」動向を中心にアップデートをいただきつつ、「社外のステークホルダーへの働きかけ・協働」と題して、4日目の最終日の内容である自社だけの施策では難しい・生団連を通して政府なども含めた社外への働きかけの必要性を解説いただきました。4日目の発表では、急速に進む法律や政策の整備など、目まぐるしく変わる日本社会において、生団連として今後働きかけるべき宿題をグループで検討し、発表して参ります。

▲大崎 麻子 様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)

▲会場の様子

ジェンダー主流化 第2回企業分科会4日目 開催

10月7日(月)ジェンダー主流化 第2回企業分科会4日目(最終日)を開催しました。

4日目を迎えた企業分科会は、20企業・20名の方にご参加いただきました。最終日となった今回は、冒頭大崎麻子様から「社外のステークホルダーへの働きかけ・協働」と題して、自社だけの施策では難しい・生団連を通して政府なども含めた社外への働きかけの必要性を解説いただきました。

ワークショップでは、各グループが「政府・行政機関」「生団連全体」「教育機関」などの各ステークホルダーに対して、生団連から働きかけてほしい、という「生団連への宿題」について検討しました。

▲大崎麻子様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)
1日目、4日目講師

▲グループ討議の様子

発表では、ワークショップで各グループのまとめた上記「生団連への宿題」とともに、これまでの分科会で「システム思考」を用いて思考した「各社の課題および解決に向けたTOPへの依頼事項」を参加された各企業の役員、上長の皆様に対して、発表いただきました。

発表を聞いていただいた各社役員、上長の皆様は、各々発表者の検討要請をしっかりと受け止め、ジェンダー主流化を企業内で進めていくために、惜しみないご支援をいただける旨、力強い激励のお言葉を頂きました。

▲会場の様子

▲只松観智子様(株式会社Think Impacts代表取締役)
2日目、3日目講師

最後に、塩澤賢一座長より、「このジェンダーの課題は、資本市場の中で経営者も様々なプレッシャーのある環境である。4回の分科会を通して、参加者の皆様が様々な問題をあぶり出していただいたと思っている。11月5日に開催する『ジェンダー主流化委員会』でも、頂いた『生団連への宿題』について議論を深め、皆さんのお力をお借りしながら、実現に向けしっかり進めていきたい」とのお話をいただきました。

塩澤座長(アサヒビール株式会社取締役会長)▶